

看護力向上支援事業を受けて



福島県ふたば医療センター附属病院
看護技師 安達 生真

ふたば医療センター附属病院の課題

高齢の
誤嚥性肺炎
患者が多い

高齢者の嚥下機能の理解不足

絶食治療中のケアが統一されない

絶食期間の長期化

予防的ケアの不足している

STが不在である

看護力向上支援事業を通しての目標

1

摂食嚥下障害看護についての
基礎知識を理解出来る

2

摂食嚥下障害患者のケアを統一
して行うシステムを確立出来る

3

嚥下訓練を看護師ができる

支援前後の変化

【講義内容】

第1回

摂食嚥下障害の基礎知識

第2回

誤嚥性肺炎患者の段階的介入

第3回

脳梗塞患者の段階的介入

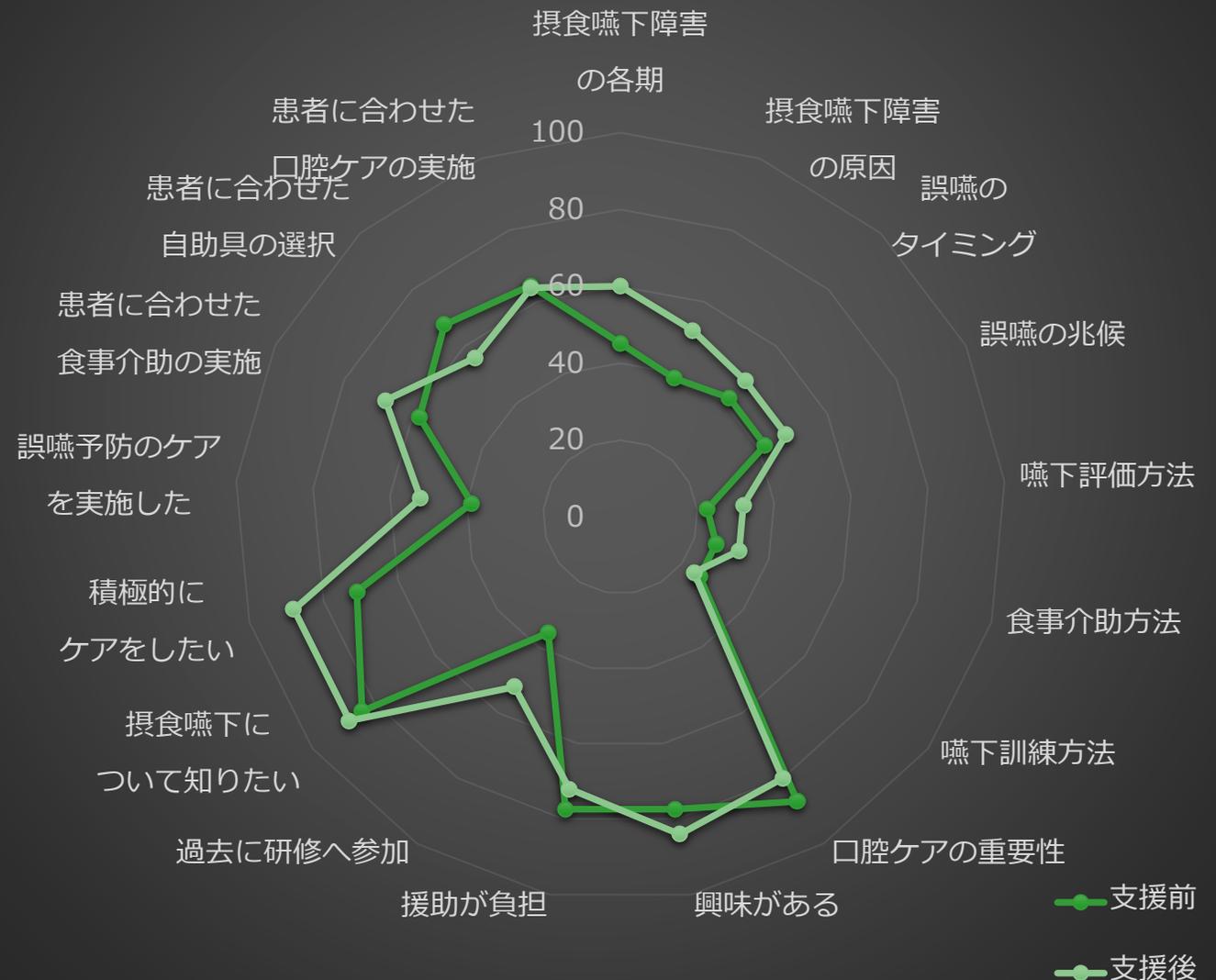
第4回

口腔ケアについて

第5回

高齢者の「食べる」を支えるために（研修の振り返り）

講義前後で知識・意識・実践の3項目に分けてアンケートを実施



支援を受けて作成したもの

嚥下評価方法Excelチャート

- 嚥下テスト内容をExcelで選択入力
- 次行う事が表示される
- より根拠ある嚥下評価が可能になる
- 嚥下評価後に行うべき事が明確になる
- 経過表の入力やカンファレンスで記録を残し、情報共有を図ることで、効果的な食事援助や誤嚥予防に繋がる

嚥下訓練アセスメントExcelチャート

- 入院時に疾患などで患者を選定する
- 症状に応じた個別性のある嚥下訓練が可能になる
- ベッドサイドに訓練内容が記載されているパンフレットを置くことで、統一した嚥下訓練が可能になる
- カンファレンスを行うことで、効果的な食事援助や誤嚥予防に繋がる

実際にExcelチャートを活用して

【症例紹介】

- 80代男性、誤嚥性肺炎、施設入所中
- 認知機能低下があり、意志疎通が出来ない
- 食事は全介助だが、食べ物を認識出来ない

嚥下訓練アセスメントExcelチャートの使用

【行った介入】

- 食前の嚥下訓練の実施
- 食事摂取時の姿勢や介助方法をカンファレンスで共有
- 多職種とも情報共有し、退院支援の実施

療養型病院への転院の予定だったが、元いた施設へと退院することが出来た

今後の課題

今回の支援を通して摂食嚥下に対して高まったスタッフの関心や意識の維持

個別性のある嚥下訓練や口腔ケア、食事介助の継続

「嚥下評価方法」「嚥下訓練アセスメント」を運用するにあたり、症例を集める必要があるため、摂食嚥下係以外のスタッフの協力を得ていく

今後、継続していくために…

摂食嚥下に関する勉強会の実施

摂食嚥下係が主体となりカンファレンスを実施する

他スタッフを巻き込みながら「嚥下評価方法」「嚥下訓練アセスメント」を試運用する